

令和7年度 第3回伊勢原市食育推進会議 議事録

【開催日時】 令和8年2月26日（木） 午後3時30分～午後5時00分

【開催場所】 伊勢原シティプラザ1F ふれあいホール

【出席者】 食育推進連絡会議委員14名・食育関連課5名・事務局6名

【公開可否】 公開

【傍聴者数】 0人

【配付資料】

- ・会議次第・名簿
- ・資料1 第4次伊勢原市食育推進計画 中間評価報告書（案）

1 開会

2 あいさつ

3 議事

（会長）

それでは、次第に沿って進めたいと思います。事務局から、ご説明をお願いいたします。

（事務局）

資料1、第4次伊勢原市食育推進計画中間評価報告書（案）について、説明いたします。

1ページの(1)中間評価の目的【計画の期間】にあるとおり、第4次伊勢原市食育推進計画の中間評価が令和7年度になっています。令和9年度までの残り2年間でこの計画を推進していく中で、特に評価が悪化したものや改善が見られなかったものに対して、推進していければと思います。

4ページは中間評価結果の一覧で、16指標ありますが、「◎：目標を達成した」が3指標、「△：目標には至らないが基準値より数値改善した」が5指標、「▼：基準値より数値が後退した」が8指標あり、半数が後退しています。

5・6ページ目はこの16項目の指標について、目標値の達成度割合をR3年度、R6年度のデータと比較しグラフ化したものです。5ページの上部には、特に目標値との乖離が大きかったものについて4つ挙げています。「①20～30歳代女性のやせ（BMI18.5未満）の人の割合（重点目標）」、「⑤20～30歳代の朝食欠食（週に1～2日又はほとんど食べない）する人の割合」、「⑩1日に1回も共食をしていない人の割合」は増加していて、「⑫家で料理の手伝いをしている中学生の割合」は減少しています。

7ページをご覧ください。中段のR3年度とR6年度の女性のやせの割合を比較したグラフですが、特に30歳代のやせが増加しており、30歳代～60歳代までの世代で増加しています。20～30歳代については、「ご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。」との設問に、やせの人でさらにやせたい、維持したいと思う人が8割を超えていました。取組の状況評価では、事業に対してはA評価していますが、行っている事業に対してなかなか効果が見られませんでした。今後の方向性と取組については、5項目掲載しています。代案などがありましたら、ご意見を聞かせていただければと思います。

9 ページは男性の肥満についてですが、「ご自分の体格について、今後どうしていききたいと思っておりますか。」に対しては、肥満の人はやせたいと思っている割合が多く、ご自身の体格について認識しているようです。取組の状況評価では C 評価が 50%あり、事業を進めていくことで改善につながっていくと思いますので、達成状況の背景や要因についても記載させていただきました。

12・13 ページは高齢者の適正体重についてです。こちらは若干改善しております。高齢者になると「ご自分の体格について今後どうしていききたいですか」の設問に対し、やせている人は太りたいと回答する割合が 35.5%と、若い世代と比べると増加しています。13・14 ページは高齢者の買い物について、地区別にグラフ化したものです。地域によって交通手段やお店までの所要時間に違いがありますが、このこととやせの関連は見られませんでした。「普段、食料品の買い物で不便や苦労はありますか。」では、高部屋地区や大山地区は他と比べて、不便があると感じている人の割合が多くなっています。今後の方向性と取組では、買い物が難しい地区の通いの場での食育事業を行ってはどうか等を考えております。

16 ページは朝食欠食についてです。朝食欠食と「あなたの経済的な暮らし向きはいかがですか」について統計的な検定をかけると有意差が出ていて、朝食欠食者が「あまりゆとりがない」「まったくゆとりがない」割合が多いという結果でした。また、中学 2 年生の「朝食を毎日食べる割合」の H23 年からの推移グラフを見ると、毎日食べる人の割合が少しずつ減っている傾向にあります。17 ページは市内にある県立高校の 1 年生に行った調査ですが、「朝食をどのくらいの頻度で食べていますか」について、やせの生徒は他と比較して「ほとんど食べない」人の割合が一番多い結果でした。また、食育に関心がある高校生の方が朝食を食べているという結果も出ています。取組の評価は A 評価ですが、事業の組み方も見直す必要もあるため、いくつかの事業を記載しています。

21 ページは主食・主菜・副菜をそろえた食事についてです。バランスが整わない人は若い世代に多く、また、全世代で経済的なゆとりと有意差が出ています。22 ページは中高生の食生活を振り返り、現在の食生活との比較をしたものですが、特に中高生の時に「1 日 3 食決まった時間に食事をとっていた」「家では家族と一緒に料理をしていた」について有意差が出ており、主食・主菜・副菜がそろっている人の方が、思春期にそのような食事をしてきた人が多いという結果でした。「主食・主菜・副菜のうち、最もそろいにくいのは何ですか」については副菜が多く、野菜を使った料理をそろえることが難しいという結果でした。23 ページには、バランスの取れた食事回数を増やすために、年代別に必要だと思うことについての設問も載せています。

27 ページは共食についてです。1 日に 1 回も共食をしていない人については、一人暮らしの方に多いですが、年代別で見ると、最も多いのが 30 歳代、次に 70 歳代でした。30 歳代で一人暮らしの方には手軽に準備できるようなメニューの普及啓発、高齢者には通いの場等での共食を普及させていくとして、今後の方針・取組等に掲載しました。

30 ページ「家で料理の手伝いをしている中学生の割合」は減少していて、R3 年度からの推移グラフでは料理の手伝いだけでなく、他の手伝いも減少しています。事業評価は A ですが、なかなか現状に反映できていない状況です。今後の方針・取組等では、食の重要性について普及や発信を増やしていきたいと思っております。

35 ページは地産地消や農業体験についてです。「栽培・収穫・農業体験をしたことがある人の割合」は若干減少しています。地区別にもグラフ化しましたが、体験した人が多い地区もあります。中高生の時に栽培・収穫・農業体験をした人は主食・主菜・副菜のそろった食事をする割合が多かったことや、食育への関心がある割合が多かったという有意差が出ており、良い影響を及ぼしています。今後の取組に

については、2項目以外にも追加する予定です。

中間評価を踏まえた強化取組として、42ページにまとめています。特に目標値から離れてしまった4項目は事業データを踏まえ、強化する取組を掲載しています。健康づくり課と関係各課だけでの実施は難しく、連携が必要な関係機関や関係職種を記載させていただいたので、ご意見等をいただけたらと思います。回答書のご意見等も報告書に反映していきたいと思っています。

(会長)

ただいま事務局から説明していただきました。以上の説明を踏まえて、一人ずつご意見お願いいたします。

(委員)

若い人の朝食欠食が当たり前になってきていることが気になっています。幼稚園の保護者に対しては、お子さんだけでなく、大人もしっかり食べましょうと伝えていますが、保護者が1日2食と間食でお腹を満たしていると聞くので、健康的な体重になってほしいと思います。保護者が食べないのに子どもに食べさせるのは無理があり、子どもも朝食欠食してしまうと思います。

(委員)

保育園では共働きの家庭が多いので、一汁三菜を作ることは大変です。栄養バランスが取れて簡単にできるような市のメニュー等があると良いと思います。

(委員)

「小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数」については、使用するだけでなく、野菜について放送やクラス内で生産者を紹介するなどして、食材について興味を深められるようにしています。主食・主菜・副菜を推進するための関連する食育取組として、家庭地域との連携（小・中学校）がありますが、給食だよりは旬の食材とともに、給食のレシピを載せています。食を通じたコミュニケーション取組事業の「行事食、郷土料理、特別献立の実施（小学校）」では、給食で節分の豆やひなあられ、日本の食文化である和食も出して、よく考えて献立を立てていると思います。

(委員)

中学生の朝食欠食や栄養バランスの改善に向けた食育の取組についてですが、中学生の現在の様子を見ると、以前よりもアレルギーを持っている子が大変多いです。また、低身長・低体重で悩んで入学してくるお子さんもいらっしゃいます。選択式デリバリー給食が始まり、喫食率も上がってきていますが、残さず全部食べなさいとは一律に言いにくい状況で、それが成長に結びつかない所もあると思います。朝食欠食については、前日の夜の生活も関係していると感じます。SNSの利用などで夜遅くまで起きたり、塾で遅い時間に食事をすると、朝食べられないことがあると思います。朝登校しただけで疲れて保健室に行く子供もいて、話を聞くと、朝食欠食している、寝る時間は24時過ぎの生徒が多い印象です。中学生の朝食欠食や栄養バランスの改善に向けた食育の取組には、食だけでなく生活全体のバランスを整えていくことを、中学校の現場でも考えていかなければならないと感じました。

(委員)

「小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数」については、地場産の野菜を農家さんと協力していますが、天候不順などでそろわなかったことがありました。使用が難しくなった食材については、市の地場産野菜を使用したメニューにそのまま反映することができないことがあります。また、学級菜園で収穫した野菜も給食で使用していますが、量は年によりばらつきが見られます。しかし、児童が農家さんに直接話を聞きたいと言い、学校にお呼びして授業でお話ししていただく機会があり、野菜や農家

さんに関心を持ってきているのかなと思います。

また、手伝いの設問については、R6年度からタブレット回答になり、集計に影響が出ているのではないかと思います。

(委員)

会議を通じて、食育が大事だと改めて思うようになりました。

(委員)

食生活に偏りがある児童は、栄養バランスが整った給食に助けられている人もいます。

(委員)

食に興味を持つことが大きいと思いました。学校では調理実習等で食に興味を持てる場があるので、その興味を家庭でつないでいこうと思います。

(委員)

地域における食を通じたコミュニケーションの機会の推進については、様々な料理レシピがありますが、高齢者や男性に対するものもあると良いと思います。

(委員)

子どもに興味を持ってもらえるよう、地域のイベントで野菜を350g計るコーナーを作りました。初めて野菜に触れる子や、親御さんと会話をして野菜を計る様子を見たりしたので良いなと思いました。高齢者は遠くまで足を運ぶことが難しいので、より地域に密着して、近所でこういった企画や食事ができると良いと思います。

(委員)

42 ページのまとめや男性の肥満を含めて、いかにバランスよく食べるかに尽きるのではないかと思います。中間評価結果の半分は数値が後退したが事業評価はAが多いことについては、内容を生活習慣病予防等にシフトされるといいのかなと感じました。特にお子さんは一つひとつの食材の理解や大切さについては進んでいると思いますが、食事全体としてどう設えるのか、設えないとどうなるかについてはまだ説明が足りないのかと思いました。食事や食育に興味を沸くと、そこから良い方向に派生してくると思うので、市として子供も大人も食に興味を持つことが一番良いと思います。料理コンテストではお弁当を作っていますが、時間をかけて料理をしていると、日常の生活に当てはめるのは難しい状況です。主食・主菜・副菜の中でもそろえるのが難しい副菜を、手間がかからない朝ごはんレシピとして収集したり宿題にしたりすると、生徒は競ってやる気を高めたり、それに協力する親御さんがいたり、良い方向につながるのではないかと思います。

女性のやせの問題では、やせている人がやせたいと思ったり、やせているまま維持したいと思ったりと、太っている男性がやせたいと言うのとは状況や取組がかなり異なると思います。また、経済的な問題で食べられなくてやせた方や、食べているのに太れない方もいらっしゃいます。やせの人は将来どのような問題が起こるのか、想像力が働かないと思うので、現状の体調不良に結び付けて、体重を増やすと心身に良い影響があることをアプローチしていくと良いと思いました。

男性の肥満についてはなかなか情報を届けることが少ないと思いますので、例えばお子さんの給食だよりも、働き盛りのお父さんお母さんに向けての情報発信をしていただくと目に触れるのかなと思いました。

(委員)

私が関わるのは高齢者で、お一人暮らしや高齢ご夫婦が多いのですが、特に気になる方には1日の食

事はきちんととれていきますかと声を掛けています。きちんと食べられていない方にはお弁当を買ったら副菜も買うよう勧めたり、ご飯と汁物で済ますのではなく家にあるもので何か作るように促したり、現状より悪くならないように少しずつお声かけしています。

(委員)

12 ページの高齢者の低栄養傾向が少し改善したところで、今後の取組として低栄養の弊害についての理解を浸透させることだということですが、伊勢原市は高齢化率が高いので、高齢者の食育は重要になると思います。また低栄養から招く筋力の低下、つまりサルコペニアによる負のスパイラルに陥らないための取組が必要だと思います。

農業体験関係では、地域や学校等で行った農業体験が、大人になってからの食生活に対して重要になるというデータが出ていますので、行政と連携を取りながら食育に取り組んでいきたいと思っています。収穫体験では収穫の喜びに加えて、獣害もあることなどについても学ぶ機会を設けたら良いのではないかと思います。

(会長)

活発なご意見ありがとうございます。ぜひ、今回の意見を中間評価報告書に反映させていければと思います。

次の議事(2)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは説明させていただきます。(2)の次期(R8~9年度)の食育取組についてです。

今回、この中間評価の報告書を受けて、特に状況が後退した目標や施策に関して、残り2年で強化して取り組んでいく必要があることを先ほど説明させていただきました。

それらに関して、関連各課から本日、所属長や担当が来ておりますので、特に令和8~9年度の取組計画について説明をさせていただければと思います。

(こどもみらい課)

母子保健を担当しており、妊婦さんから乳幼児とその保護者を対象に事業を行っております。若い女性のやせ、若い世代の食育が課題に挙がっていましたが、妊婦さん対象の母親父親教室ではやせしていると低出生体重児が産まれるリスクが上がることもお話していて、妊婦さんのお食事についても分析結果をお出しすることで、食事内容の見直しができる内容にしています。乳幼児健診等では子どもの食事の話が中心にはなりますが、親御さんの食事や健康についても伝えられるように、指導内容の見直しも検討していきたいと思っています。最近は共働きのご家庭が増えていて、ライフスタイルも多様だと感じる事が多く、なかなか一律に朝食を食べましょう、バランス良く食べましょうと言っても取り入れにくい実情があると感じます。特に、個別の相談の中では、それぞれの生活に合わせてできそうなことを一つでもお持ち帰りいただけるような対応も必要だと思います。妊娠や子育ては、食事や健康に関心を持つきっかけになりやすい時期だと思うので、引き続き事業に取り組んでいきたいと思っています。

(保育・幼稚園課)

公立の保育園がメインになりますが、保育園や幼稚園の担当をしています。保育園、幼稚園に食育に関するアンケートを行ったところ、どの施設でも自園の畑や園内のプランター等様々な形での農業体験を行っていました。この経験を通して食に対して興味を持ってもらい、小・中学生や高校生になって食育と結びつくと良いと思いながら、各施設と情報共有をしています。市として毎月食育だよりを施設に提供をしていて、朝食やお手伝い、共食についても伝えていますが、今後はやせについても伝えられ

たらと思います。

(教育指導課)

食に関する普及啓発を小・中学校に対して行っていることと、各校で働いている栄養教諭や食育担当者が集う連絡会を開き食育ネットワークを後押ししています。大人になっても食の意識を高く保つためには、子どものうちから食に興味を持つことは欠かせないので、食についての指導が大事だと思っています。学校現場では、食に関する指導は学校管理職のリーダーシップのもと栄養教諭が情報発信をするのはもちろんですが、食育担当ではない一般の先生も食に興味を持って、日常の教育活動の中で食の話題を出すことが大きな働きになると思います。研修等を通してより食に対しての興味を持ち、大人から変わることも大事なかなと思います。

(地域福祉推進課)

高齢者の介護予防関係の事業をしております。高齢者の低栄養やフレイル・介護予防については、話題を提供し意識を高めていかなければならないと担当課でも話しているところです。独居の高齢者の増加や、出かける場がなく閉じこもりや引きこもりなども課題ですので、地域における食を通じたコミュニケーションの機会を増やしていく取組の中でボランティアを活用したり、地域包括支援センターと連携したりしながら取り組んでおります。また、これまで低栄養の講話で管理栄養士にミニサロンやダイヤモンドの場に来ていただいたり、食べることは口の健康も大事になるので歯科衛生士にも来ていただいたりしています。体を動かさずとお腹が空いたり、お話ししながら食べると食が進んだりするので人とのつながりがとても大事だと思います。機会を増やすために公民館だけでなく、地域の個人宅や近くの施設で集ったりすることも展開できたら良いかなと思います。

高齢になると買い物が大変だとアンケートにもありましたが、地域包括支援センターでも買い物の課題が出ています。店舗がなくなった、バスの便が悪いなどの声を聞き、移動販売を取り入れることや、住民主体で移動の支援をしようという取組が少しずつ広がってきているので、食の推進も含めて高齢者の生活について一緒に考えていけると良いかなと感じております。

(農業振興課)

農業体験事業や農業イベント、市民農園、伊勢原市の農産物を用いたメニューの紹介等を行っております。農業体験事業に関しては、谷戸田オーナー制度があり委託してNPO法人が行っております。定員20組に対して18組受け入れ、今後も継続していきます。みかんオーナー制度は新規募集をかけたのですが0件で、木が枯れるなどで提供できないことが出てきております。

農業イベントは毎年11月第3日曜日に畜産まつりを行っており、今年は9,000人の規模で行いました。獣医師や搾乳体験を今後も続けていきたいと思っています。

市民農園は西富岡地区の八幡谷戸ふれあいガーデンの利用率が7割強です。2月は更新月で新規獲得のための説明会を行っています。

農産物を用いたメニューの紹介については、小学校2校の給食のシチューの原材料にいせはら地ミルクを提供しています。また、向上高校生を対象に田植え体験を行っています。

新たに始めたのが、市のホームページで個人の直売所マップを紹介して市内外に認知していただくようにしており、現在20件ほどあります。今後も件数を増やすことで地域の生産者の意欲につながれたらと思います。

(健康づくり課)

健康づくり課では、若い世代や働き盛り世代の方へのアプローチを進めていきたいと思っております。

地域職域連携ということで様々な事業所等に出向いていき、やせの視点でも実施していきたいと思います。子どもの頃からの手伝いに関しては料理コンテストを実施していますので、関わられたらと思っています。

(事務局)

今日は学校教育課が不在ですが、中学生に向けて骨量測定時にカルシウムの話をしていたのを、中間評価の結果を受けて、今後朝食欠食や適性体重の維持の内容を入れてくださるということを聞いております。

(会長)

委員や関連課の皆様から、多様な意見を頂きました。高齢者の多世代交流や買い物支援については、他の市町村も協議体等を設置して検討を始めていますので、これから進んでいくかと思えます。ここで課題を共有していることが重要だと思いますので、一気に解決しなくても、関係部署間で行っていくと良いと思います。

事業を行っているがA評価だけれど、実際の評価が成果に結びついていないという事務局の説明がありました。食育で行っている事業はポピュレーションアプローチであり、広く満遍なく課題があることを伝え実施しているだけなので、どういう結果が出ているかについてはアプローチ方法が違うため、話がまた別になると思います。今回課題となっている現象は若い女性のやせといったハイリスクなもので、それと今回の事業評価の対象の食育の取組には因果関係はあまりありません。それを解消するならもっとバックキャスト思考で考えていかなければならないですが、食育計画の仕組みがあくまでもこういう取組で中間・最終評価を行って、こういう課題があったのでまたこういうことをやりましょうという、緩やかなPDCAを回す流れになっており、絶対にこの課題を解決しないと取組に意味がないのかと言うとそうではないです。

ですから計画としてはこれで良いと思いますが、結果として表れてこないことに関しては、もう少しハイリスクなことに特化して織り込んでやるのが重要です。例えば、若い女性のやせについてなら、教育委員会や子ども関連部門に特化して、給食献立や地産地消だけではない、ハイリスクアプローチの取組が求められます。

本日の議事はこれですべて終了いたしました。進行にご協力いただきましてありがとうございます。それでは事務局の方にお返しいたします。

4 その他

今日は、食育推進会議の委員として2年間の任期内での最後の会議となります。委員の皆さまには会議にご参画いただきありがとうございました。この会議でお出しいただいたご意見を基に、様々な食育の施策や事業に取り組んでいくことができたと思います。

令和8～9年度は第4次伊勢原市食育推進計画の最後の期間となりますので、さらにこの会議で連携しながら取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。

それでは、閉会のお言葉を副会長よりお願いいたします。

5 閉会

(副会長)

それでは以上をもちまして、第3回伊勢原市食育推進会議を終了とさせていただきます。